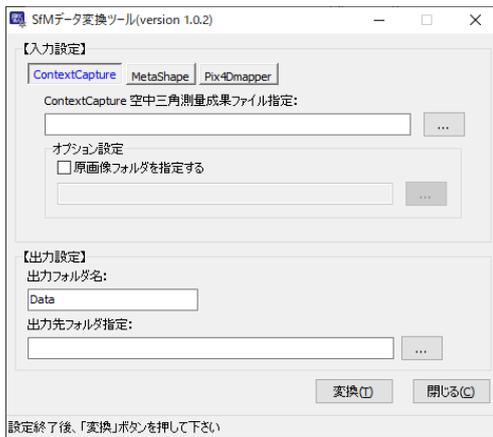


図化名人 GE2/SA2 リリースノート

図化名人 GE2/SA2 Ver 5.03.0006 更新内容 (2024年6月5日)

図化名人 GE2 全般

- SfM データ変換ツールをリリースしました。各種 SfM ソフトウェアより出力した空中三角測量結果と歪み補正画像より、図化名人 GE2 のプロジェクト用のデータを出力するツールです。機能詳細は操作マニュアルを参照ください。

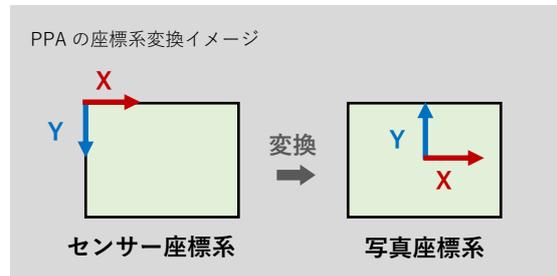
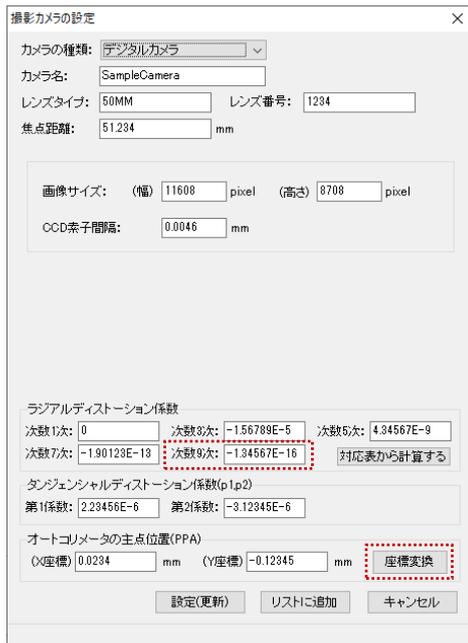


対応 SfM ソフトウェア

- Bentley ContextCapture
- Agisoft MetaShape Professional Edition
- Pix4D Pix4Dmapper

プロジェクト管理 (GE2)

- カメラ設定のラジアルディストーション係数の9次式に対応しました。
- センサー座標系(Pix)で定義された PPA を写真座標系 (mm) に変換する機能を追加しました。



- ・ 基本設定画面で、標定解析アプリケーションで取得する対応点の点名の桁数を従来の「8桁」から「9桁」に変更することが可能になりました。9桁を選択したプロジェクトは、1コースあたりに登録可能な画像の上限が1,000枚に増加します（8桁の場合は100枚）。但し、9桁を選択したプロジェクトは後方互換性を失うため、旧バージョンの図化名人 GE2/GE ではプロジェクトを正常に開くことができません。また、対応点の取得後は設定を変更できませんので、ご注意ください。

標定解析 (GE2)

- ・ 「BndlResult.txt」の記述される空中三角測量結果のレポートの内容を変更しました。
- ・ 対応点の登録時間を短縮※しました。※点情報画面が非表示のときに点の登録を実施した場合

自動 DEM 計測 (GE2)

- ・ zeiss 社製カメラの範囲設定のエラーを修正しました。

数値図化・編集 (GE2/SA2)

- ・ カーブモード、閉カーブモード有効時に設定した補間間隔より短い距離を図化した場合、エラーメッセージを表示するよう修正しました。
- ・ 左利き用マウスモードに対応しました。

オルソフォト作成 (GE2)

- ・ GEF、DWG、DM、SHP(3D)のベクトルデータを参照ファイルとして登録した際、「.area」ファイルが生成されず、参照ファイルとして登録されない不具合を修正しました。

図化名人 SA2 全般

- ・ AIRBUS 社製の衛星画像「SPOT6/7」及び「Preades」に対応しました。
- ・ GRD 形式の EGM96 ジオイドデータに対応しました。※前バージョンでは DAC 形式のみ対応
- ・ EsriASCII ラスター形式で記述された Geoid フォーマットに対応しました。

その他

- ・ WIBU キーのドライバのバージョンを「6.60」に変更しました。

図化名人 GE2/SA2 Ver 5.03.0002 更新内容 (2022年8月12日)

標定解析 (GE2)

- ・ チェックシートの「検証点」の可否判定のエラーを修正しました。
- ・ 新バンドルモジュールの関連ファイルを差し替えました。※32bit版のみ

図化名人 GE2/SA2 Ver 5.03.0001 更新内容 (2022年7月29日)

全般 (GE2/SA2)

- ・ ラジアルディストーション補正係数の9次式を含むカメラパラメータに対応しました。

標定解析 (GE2)

- ・ チェックシートの「検証点」に標準偏差の表示欄を追加しました。
- ・ 「精度基準管理表」の各規定値の初期値を変更しました。

数値図化・編集 (GE2/SA2)

- ・ 連続線分の始終点を「図形の一本化」を有効にして図化モードにより接続した場合に、要素タイプが「連続線分」から「多角形」となるよう修正しました。
- ・ ショートカットキーの「Ctrl」+「W」キー（立体観測画面の状態切り替え（左右分割⇔上下分割））を削除しました。

図化名人 GE2/SA2 Ver 5.02.0088 更新内容 (2022年7月26日)

標定解析 (GE2)

※新バンドルモジュールの起動制御を行いました。

図化名人 GE2/SA2 Ver 5.02.0087 更新内容 (2022年7月19日)

標定解析 (GE2)

- ・ アプリケーションの起動に関する不具合を修正しました。

図化名人 GE2/SA2 Ver 5.02.0086 更新内容 (2022年5月28日)

全般 (GE2/SA2)

- ・ 操作マニュアルを更新しました。

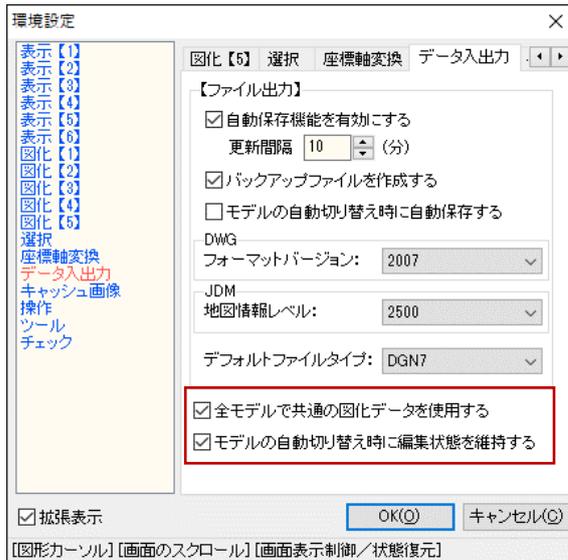
図化名人 GE2/SA2 Ver 5.02.0085 更新内容 (2022年5月23日)

標定解析 (GE2)

- ・ 「BndlResult.txt」の記述内容を変更しました。
- ・ アプリケーション起動時の「TKY2JGD.par」未格納時に表示されるメッセージを変更しました。

数値図化・編集 (GE2/SA2)

- ・ モデルの自動切り替え後も図化モードの編集状態を維持する機能を追加しました。
【操作】メニューの「設定」→「環境設定」の「データ入出力」より設定



「全モデルで共通の図化データを使用する」にチェックを入れた状態で、「モデルの自動切り替え時に編集状態を維持する」にチェックを入れると、「モデルの自動切替」機能有効時に、設定が反映されます。

- ・ CAD→Shape 変換機能の不具合を修正しました。

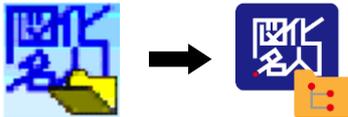
図化名人 GE2/SA2 Ver 5.02.0084 更新内容 (2022年2月10日)

※~ Ver 5.02.0083 までの更新内容も含む

全般 (GE2/SA2)

- ・ アプリケーションのアイコンを変更しました。

例) プロジェクト管理アプリケーションアイコン

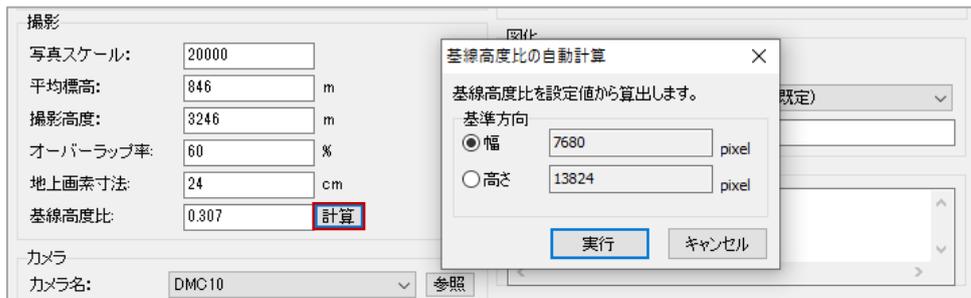


- ・ ログファイル生成時に発生する起動不具合を修正しました。

プロジェクト管理 (GE2)

- ・ 基線高度比の自動計算時にカメラ方向 (縦・横) を指定する設定を追加しました。

【操作】「基本設定」画面の「基線高度比」横の「計算」ボタン押下



標定解析 (GE2)

- ・バンドル調整計算の基準値の指定方法を「デジタル航空写真」「アナログ航空写真」「指定入力」の3種類に変更しました。

【操作】「空中三角測量」モードの「チェックシート」→「基準値の変更」ボタン押下

- ・参照標高データの対応フォーマットを拡充しました。

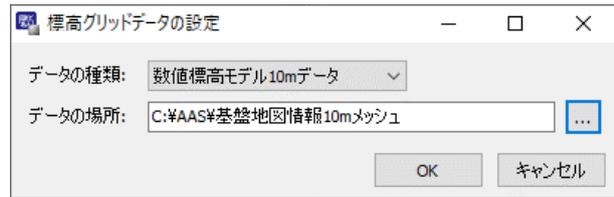
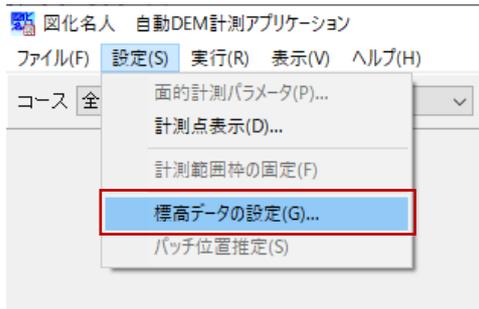
【操作】「空中三角測量」モード時に「パラメータ」ボタンを押下

- ・バンドル調整結果の交会残差の精度判定に関わる不具合を修正しました。

自動 DEM 計測 (GE2)

- ・参照標高データの対応フォーマットを拡充しました。

【操作】メニューの「設定」→「標高データの設定」



数値図化・編集 (GE2/SA2)

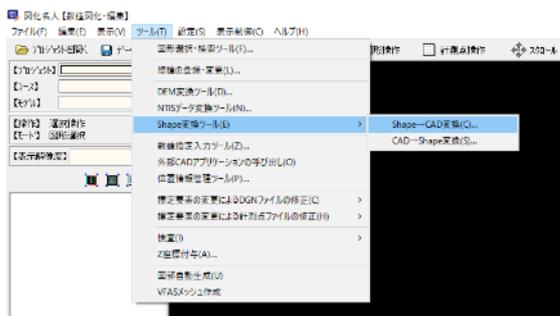
- モデルの自動切り替え機能の範囲の設定機能を追加しました。

【操作】メニューの「表示制御」→「2画面立体観測モード」→「設定」



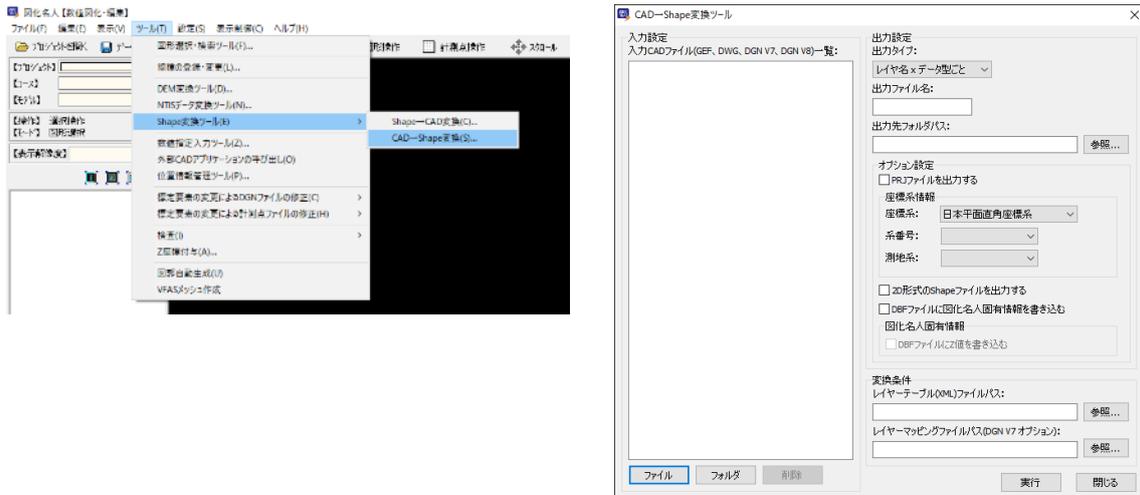
- CAD→Shape 形式変換機能を追加しました。

【操作】メニュー「ツール」→「Shape 変換ツール」→「CAD→Shape 変換」を選択します。



- Shape→CAD 形式変換機能を追加しました。

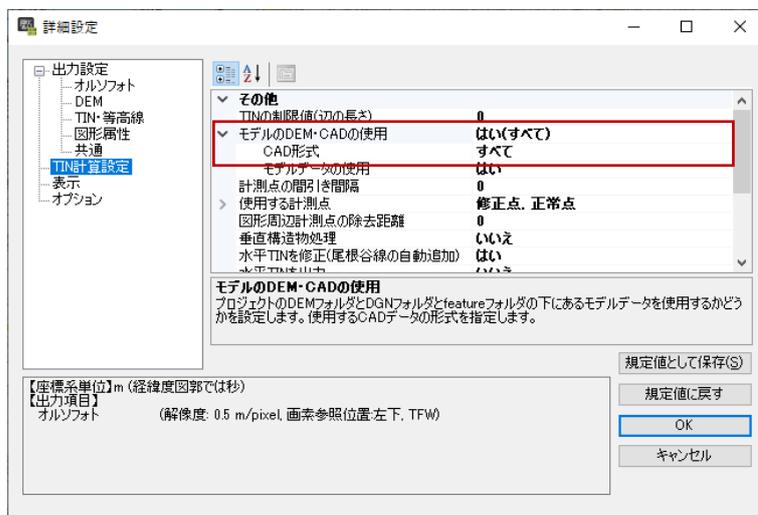
【操作】メニュー「ツール」→「Shape 変換ツール」→「Shape→CAD 変換」を選択します。



オルソフォト作成 (GE2/SA2)

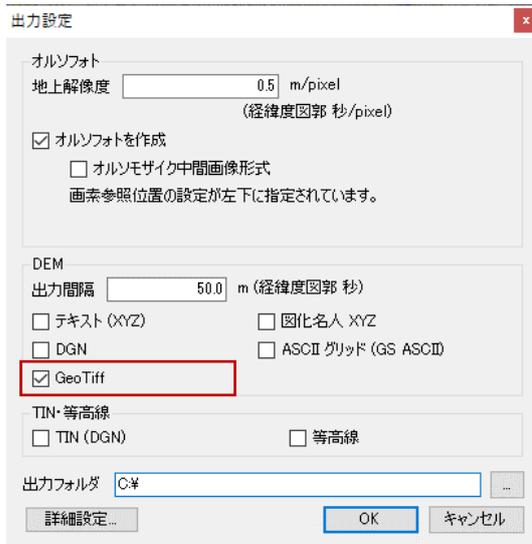
CAD データの入力フォーマットを拡充しました。入力データとして、DGN 形式以外に GEF、DWG、Shape が使用できます。

【操作】メニューの「プロジェクト」→「詳細設定」の「TIN 計算設定」→「モデルの DEM・CAD の使用」にて設定



・ DEM データの出力フォーマットに GeoTIFF を追加しました。

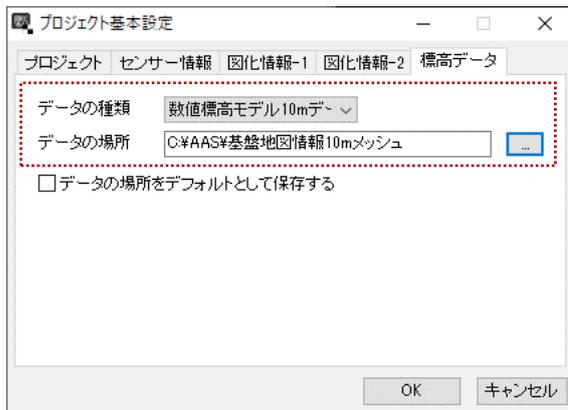
【操作】メニュー「プロジェクト」→「出力設定」にて設定



標定解析 (SA2)

- ・ 参照標高データの対応フォーマットを拡充しました。

【操作】メニューの「プロジェクト」→「基本設定」よりファイルを指定



図化名人 GE2/SA2 更新内容 (2014年4月22日)

プロジェクト管理(GE2)

- ・ 2Gbyte 以上のTIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました。

標定解析(GE2)

- ・ 2Gbyte 以上のTIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました。

自動 DEM 計測(GE2)

- ・ 2Gbyte 以上のTIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました。

数値図化・編集(GE2/SA2)

- ・ 2Gbyte 以上のTIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました。
- ・ Shp ファイルの読込と書込みに対応しました。
- ・ 簡易属性編集機能を追加しました。(Shp ファイルのみ対象)
- ・ 属性検索機能を追加しました。(Shp ファイルのみ対象)
- ・ 全モデルで共通の参照ファイル設定を使用する機能を追加しました。

オルソフォト作成(GE2/SA2)

- ・ 2Gbyte 以上のTIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました。
- ・ DWG/DM/GEF/SHP ファイルの読込に対応しました。

標定解析(SA2)

- ・ 2Gbyte 以上のTIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました。

図化名人 GE/ SA ServiceRelease 2 (DGN 版) からの変更点 (2014 年 4 月 22 日)

1. カテゴリーテーブルはレイヤーテーブルに変わりました

1.1.レイヤーテーブルとは

- ・ 従来のカテゴリーテーブル (CategoryTable.txt 等) に代わるもので、図化名人で使用するレイヤー (カテゴリー、図化項目) を定義するファイルです。
- ・ レイヤーテーブルファイルのファイル名は固定です。プロジェクトフォルダの下の Parameter フォルダ内に LayerTable.xml として置かれます。
- ・ レイヤー (カテゴリー、図化項目) と DGN V7 ファイルの要素との対応付けを行うためには、別途マッピングファイルが必要になりました。マッピングファイルは簡単なテキストファイルのため、テキストエディタ等で編集して作成することができます。DGN(V7)用レイヤーマッピングファイル出力ツールを使用すると、従来のカテゴリーテーブルから自動的にレイヤーへのマッピングファイルを作成することができます。

1.2.カテゴリーテーブルからレイヤーテーブルの変換

- ・ [レイヤーテーブル移行ツール]を使用すると、カテゴリーテーブルファイルをレイヤーテーブルファイルに変換することができます。レイヤーテーブル移行ツールは、スタートメニューの[図化名人 GE2]-[移行ツール]から起動することができます。
- ・ レイヤーテーブルを持たないプロジェクトを数値図化・編集で開くと、自動的にレイヤーテーブルに変換されます。(但し、カテゴリーテーブルファイルは削除されないので、変換したプロジェクトを、再度、図化名人GE ServiceRelease 2、図化名人SA ServiceRelease 2 (DGN 版) で開くことはできません。)

1.3.レイヤーテーブルの作成と編集

- ・ レイヤーテーブルを新規に作成するには、レイヤーテーブル編集ツールを使用します。レイヤーテーブ

ル編集ツールは、スタートメニューの[図化名人 GE2]-[移行ツール]から起動することができます。

1.4. レイヤーテーブルファイルのテンプレート

- プロジェクト管理アプリケーションで新規プロジェクト作成時に選択できるレイヤーテーブルは、
[C:¥ProgramData¥AAS¥ZukaMeijin¥GPDigitizer]に置かれています。

2. DGN V7 ファイルの取扱いが変更になりました

- レイヤー（カテゴリー、図化項目）と DGN V7 ファイルの要素との対応付けは、マッピングファイルで行います。
- マッピングファイルは、プロジェクトフォルダ下の Parameter フォルダ内に置かれる Dgn7Table.txt です。（ファイル名固定）
- Dgn7Table.txt の書式については、マニュアルの「データ変換解説書」をご覧ください。

3. シンボルファイルの形式が変わりました

- シンボルファイルの形式が、拡張子.smb に変わりました。（従来は.sbl）
- シンボルファイルは DGN ファイルの共有セル、DWG ファイルのブロック要素をインポートして作成することができます。シンボルファイルへのインポートには「シンボル登録ツール」を使用します。シンボル登録ツールは、スタートメニューの[図化名人 GE2]から起動します。
- 従来のシンボルファイル（拡張子.sbl）から新しい形式のシンボルファイルへの変換には、シンボル登録ツールを使用します。

4. シードファイルはプロジェクトごとに保持します

- シードファイルは、プロジェクトごとに保持するように変更されました。シードファイルは、プロジェクトフォルダ下の Parameter フォルダに、次のファイル名で保持されます。（SHP 形式や DM フォーマット、GEF 形式にはシードファイルはありません。）

Seed.dgn （DGN V8 の場合）

Seed7.dgn （DGN V7 の場合）

Seed.dwg （DWG の場合）

- プロジェクトのシードファイルが存在しない場合、アプリケーションは
[C:¥ProgramData¥AAS¥ZukaMeijin¥GPDigitizer]に置かれているシードファイルをプロジェクトフォルダにコピーして使用します。

5. 旧プロジェクトの自動変換について

- 図化名人 GE ServiceRelease 2、図化名人 SA ServiceRelease 2（DGN 版）で作成したプロジェクトを開くと、自動的に図化名人 GE2/SA2 の形式に変換します。この変換処理で行われる内容は次の通りです。

(1) カテゴリーテーブルからレイヤーテーブル（LayerTable.xml）を自動的に作成します

- (2) シンボル登録ツールを起動します
- (3) [登録]ボタンを押すと、画面に表示されたシンボルのうち、チェックボックスにチェックが入れたシンボルが、新しい形式のシンボルファイル (symbol.smb) に登録されます。

6. 外部レイヤーとは

- ・ 図化名人 GE2/SA2 から、外部レイヤーという概念が新たに導入されました。外部レイヤーとは、レイヤーテーブルや、DGN V7 用マッピングファイル等で定義されていない図化項目（カテゴリ）を示します。（従来では、図化項目が「未定義」として取り扱われていました。）
- ・ レイヤーテーブルでは、外部レイヤーとして取り込まれたレイヤーには「*」マークが表示されます。
- ・ 外部レイヤーは、色や線種、線幅といった表示設定情報を保存することができません。
- ・ 外部レイヤーは、レイヤーテーブルでの簡単な操作でレイヤーテーブルに登録することができます。

7. 警告メッセージ「読み込まれたシンボルファイルは正しくない可能性があります。」が表示される時

- ・ シンボルファイルに登録されたシンボルをすべてチェックし、次のケースに該当する場合、表記のメッセージが表示されます。
 - (a) シンボルの存在範囲に(0, 0)が含まれず、その存在領域までの距離が 100m 以上ある場合
 - (b) シンボルの存在領域の幅、または高さが 1000m を超える場合
- ・ 上記に該当するシンボルを配置したとき、シンボルが正しく表示されない可能性があります。
- ・ このようなメッセージが表示されたときは、シンボル登録ツールを使用してシンボルファイルに登録されたシンボルを確認し、シンボルが正しく表示されているかどうか、確認してください。正しく表示されないシンボルがあった場合、それを削除することで、このメッセージが表示されなくなるかどうか、ご確認ください。

以上